まことの道　八月　葉月　はづき

山紫水明

さんしすいめい

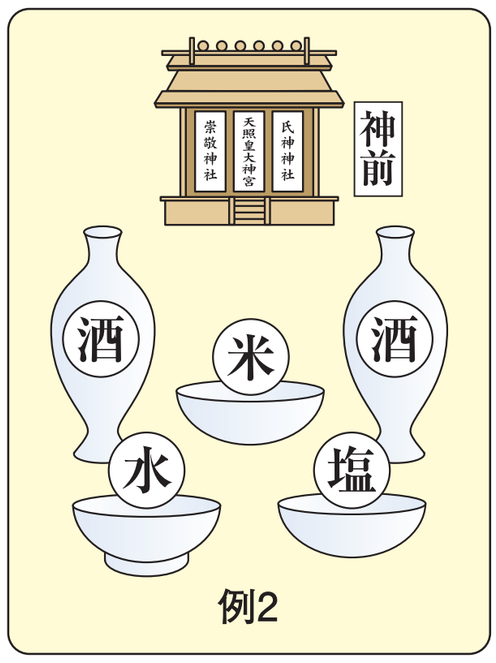
山が紫色に見え（やまがむらさきいろにみえ）
川が透き通って見えること（かわがすきとおってみえること）
山水の景色の日に映えて（やまみずのけしきのひにはえて）
清く美しいようすのたとえ（きよくうつくしいようすのたとえ）

家庭祭祀のおすすめ（さいし）

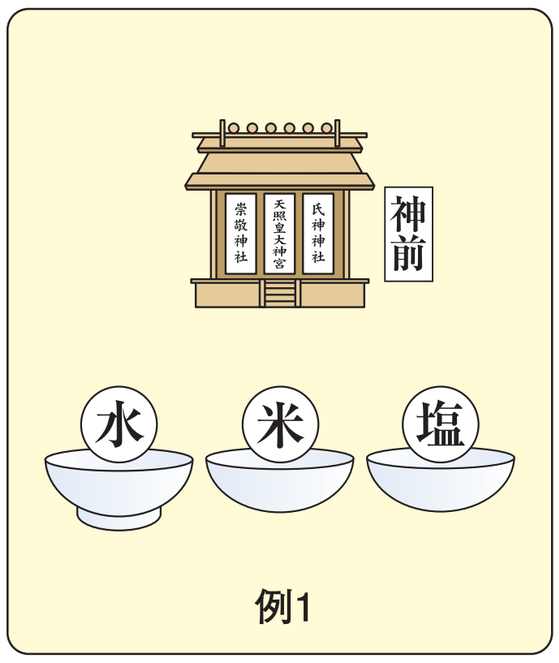
家庭祭祀の豆知識「お供え」

神棚には、主に「米」「酒」「塩」「水」をお供えします。毎日お供えするのが理想ですが、毎月1日と15日に新しいものをお供えするなど、出来る範囲で行いましょう。

一番大切なのは丁寧に感謝の気持ちをもってお供えすることです。



例2



例1

神奈川県神社庁ウェブサイト

神奈川県神社庁　〒235-0019 横浜市磯子区磯子台20-1　TEL 045(761)6387　FAX 045(761)0100　Email:k-jinjacho@kanagawa-jinja.or.jp　神社庁ホームページ https://www.kanagawa-jinja.or.jp/

お祭りについて

お祭りというと、通常とは違った晴れやかに賑わいを見せるイベントなどで使われることが多くあります。

神社でのお祭りも武者行列が登場したり山車が巡行して、笛や太鼓の調べが流れ、屋台が立ち並ぶといった賑やかな側面もあります。しかし、神社でのお祭りの本当の意味は、その賑やかさも含めて、心身を清め、神様に正対し感謝の心を捧げることにあります。その意味では、通常の神社の参拝となんら変わることはありません。

「まつり」の語源は、神さまの力に従い奉仕する「まつらふ」という言葉に由来するといわれています。また、「まつり」という言葉の中には「まつ(待つ)」という言葉が含まれています。大昔、神さまは遠いところから来られて、山や岩、木などに宿ると考えられてきました。つまり、神さまが現れるのを「待ち」、神威に服することが「まつり」であるといわれているのです。

いつの時代も人々は、心を尽くしたお供物(神饌)を捧げ、神さまをおもてなしして日頃の神恩に感謝してきました。また、人々は「まつり」に参加することで、同じ時と所に生きる人たちと喜びを分かち合ってきたのです。

神奈川県神社庁

〒235-0019 横浜市磯子区磯子台20-1
TEL:045(761)6387 FAX:045(761)0100
E-mail:k-jinjacho@kanagawa-jinja.or.jp

ご自由に一枚ずつお持ち下さい。

手を清めてから
お参りしましょう。

〈手水の作法〉

1

まず右手で柄杓を取り、
清水を汲んで左手にかけ、
左手を清める

2

柄杓を左手に持ち替えて、
同じように右手を清める

3

再び柄杓を右手に持ち、
左の手のひらに水を受けて口をすすぐ。
口をすすぎ終えたら、
もう一度、左手を水で流す
※後の人が気持ちよく手水を
使えるよう心がけましょう

公益財団法人日本文化興隆財団「神社のいろは」より抜粋